# 松山フライブルク会会報

２０２５年３月２日　ドイツ料理を楽しむ会

編集・発行：松山フライブルク会

まつやま国際交流センター内

〒790-0003　松山市三番町 6-4-20　コムズ１Ｆ

2025 年

## 会長挨拶

松山フライブルク会会長　栗原久子

今年度より会長にご推薦頂きました栗原久子でございます。

基よりフライブルク大好き人間です。宜しくお願い申し上げます。

ドイツ・フライブルク市との交流は昭和 36 年にさかのぼり、その後昭和 38 年にフライブルク市から 3 名の青年が松山市を訪問しました。それをきっかけに松山フライブルク会が発足したと伺っております。

提携後は、経済界・大学関係者・市民同士での交互交流・中学生派遣等活発な活動の展開が今も続いており、両市の様々な交流と活動、近年ではスポーツ振興に於いても輪が広がっているとも伺い益々期待をし、若い未来多き人々の交流が広がれば嬉しく思います。

さて、最近の世界情勢は目まぐるしく変わり、私たちの日常生活環境も変化し続けている昨今であり、時代も昭和・平成・令和と刻々と変わり、過去数年間は、新型コロナ禍による影響で人の移動の自粛や、国によっては移動禁止となり、海外旅行もままなら無い状況でした。最近やっと外国からの日本への観光客も増え、日本からの海外への旅行者も増えている状況になってきております。

私事ですが、振り返ってみますと、フライブルク市訪問したのは、松山市公式訪問団として 2 回、行政視察での訪問 2 回、先の 2019 年の姉妹都市提携 30 周年記念で松山フライブルク会訪問団としての訪問。合計 5 回、ヨーロッパに行くならフライブルク市を含めてとの思いが強かったのかと今更考えるところでございます。

何れに致しましても、今後とも両市が末永く素晴らしい交流が続き、お互いの国を往来することが出来ますように、素敵な活動を同会員の皆様と共に歩んで参りたいと思っております。

平成 2 年フライブルク市に日本庭園を開園。　H26 年視察

## ワインを楽しむ会に参加して

崎山莉絵

1月25日夜、松山市内のホテルにて、松山フライブルク会のワインを楽しむ会が開催され、フライブルク大学からの留学生アンナさんを含む29名ほどの会員が参加して、円卓を囲みました。

栗原会長からの開会の挨拶、アンナさんのスピーチと、ワインを用意していただいた山澤副会長によるドイツワインの説明の後、会がスタートしました。

この日用意されたワインは6種類。

ドイツといえば白ワインか甘い赤ワインを思い浮かべる方が多いのではないかと思います。その白ワインの中でも代表格のリースリング、ボックスボイテルという瓶の形がユニークなフランケン地方の白ワイン、ジルヴァーナーと、90 年代頃から生産が増えたと言われている赤ワインのピノ・ノワールです。

ワインは、リースリングが地域別に3種類、ピノ・ノワールは2種類あり、ドイツのワインだけで赤白の両方がこんなに揃うことはなかなか無いので、ワイン好きの私には貴重な機会でした。

これらに加えて、大門副会長からのお土産の、フライブルク産ピノ・ノワールもありました。大門副会長からは、フライブルクに住むご家族を訪ねた際の街の様子についてお話も聞かせて頂きました。

この機会に是非、用意されたワイン全てを試したかったのですが、会話に花を咲かせているうちに時間が経ってしまい、残念ながら全種類味わうことはできませんでした。来年の開催も期待しています。

今回参加してくれたアンナさんとも少しお話しさせていただきました。フライブルクから松山へ留学生が来るのは久しぶりではないかと思います。1年だけの留学で、次の夏にはフライブルクに戻るそうです。短い期間ですが、松山を楽しんで良い思い出を作ってもらいたいです。

## ドイツ料理を楽しむ会

中岡富茂

2025 年 3 月 2 日（日曜日）12:00～14:30　コムズ 3 階調理室で　26 名の参加で開催しました。このイベントは毎年 1 回企画し、松山フライブルク会会員以外の方にも案内されます。今年は会員 14 名、会員以外の方 12 名、合計 26 名で開催となりました。杉沢多美子先生とドイツ出身のウルリヒ・エンゲルハート先生には毎年、様々なドイツ料理を提案していただき、メニューが楽しみです。今回はシュトゥルーデルに挑戦。表現が適切かどうかわかりませんが、大きい春巻きといえば伝わるかな(-_-;)

エンゲルハートご夫妻には毎年下準備をしていただき、僕達参加者は、一番楽しい料理の仕上げと美味しく出来上がった料理を雑談しながらいただく良いとこどりの企画です(^_^)v

### ②カーニバルの由来

- 12世紀～ヨーロッパを中心に根付いていたカーニバル(ドイツ語はFaschingファッシング)
- 冬の悪霊を、仮装し大きな音を立てることで追い出す習わし
- キリスト教と合わせ、復活祭（イースター前の断食期間）のお祭りに姿を変えた
- ケルンでは、11月11日11:00にスタート！

食事をいただきながら、ドイツの雑学として、今回はカーニバルの由来を教えていただきました

お手本

出来るだけ薄く伸ばすのに苦戦

なかなか四角く伸ばせません

こんがり焼き上がりました

オーブンレンジで約 20 分

お待たせしました　いただきます

レシピはこちら
Strudel Spinat/Kaese
【生地】
薄力粉
強力粉 50g
サラダ油 50g
塩 ふたつまみ
水 10g
打ち粉 80g
適量
【フィリング】
ほうれん草 50g
玉ねぎ 25g
ニンニク 1片
クリームチーズ 50g
牛乳 20g
バター 50g
塩・こしょう・ナツメグ

# About Life in Matsuyama

Anna Carolin Barta

私はドイツのフライブルクから交換留学生として、半年以上前に松山に来ました。最初に見た景色は、建物の後ろに広がる美しい山々で、とても印象に残りました。また、私の故郷では海がとても遠いので、海を間近で見てみたいと思いました。

最初は全く新しい文化に適応するのが少し大変でしたが、たくさんのサポートをもらい、非常に感謝しています。人々はとても親切で、私の日本語があまり上手ではなかったけれど、気軽に話しかけてくれました。街は歩きやすく、タイ飯や和菓子を試すのが楽しかったです。少しずつ日本語も上達し、友達も増えていきました。日本人や他の国の人々と一緒にイベントに参加することが素晴らしい思い出になりました。特に、まつやま国際交流センターから紹介してもらった松山の家族と一緒に過ごしたクリスマスは心温まるものでした。

試験が近づくにつれて、卒業する友人や帰国する留学生たちとの別れが寂しく感じました。

今、私は春を楽しみにしています。桜が咲き、新学期が始まるのを心待ちにしており、新たな経験や出会いが待っているのだろうとワクワクしています。

# フライブルクと私

敷村弥生

***Meet Freiburg***

最初に「フライブルク」という名前を聞いたのは、まだフランクフルトに居た時のことだったと思います。松山にいる友人から「今度、松山とフライブルクが姉妹都市になる。その調印式に同行してドイツに行くから、会えないか？」と連絡が来たのです。「フライブルク？それどこにあるの？」すみません、その頃は知りませんでした。フライブルクはドイツからスイス・イタリアへの鉄道路上にも位置しており、高速鉄道 IC（インターシティー）の停車駅でもあるのですが、あまり大きな街でもなく、それこそ通過したことはあっても、認識していなかったのです。そんな私が、帰郷後、両市の交流に関わる仕事をするとは、当時は思ってもみませんでした。

フライブルク初訪問は、まつやま国際交流センターで働くようになって 1 年後くらいだったでしょうか？休暇でフランクフルトの友人と一緒に、陸路でのイタリア行の途中、IC を下車して数時間滞在しました。当時は、中央駅とその周辺の整備工事（駅舎、コンサートハウス、ホテル）が行われる前で、駅前は（こう言っては失礼ですが。。）田舎町の風情だったのを覚えています。

1990 年 10 月、まつやま国際交流センターへの出勤 2 日目の途中、左足首剥離骨折。ギブスを巻いた足に 27cm の靴を履いて出勤(笑)。

***Engage in exchange***

交流に携わるようになった最初のころ、日本語を勉強している市民の方たちによる訪問団が 2 度ほど松山に来られました。松山大学の中原先生（故人）、日本語を教えるボランティアの皆さん、まつやま国際交流センター（MIC）登録のボランティアの皆さん、松山フライブルク会の会員の皆さんなどのご協力で、日本語学習、日本文化体験、ホームステイなどのプログラムを実施したのですが、その中でとても印象に残っているエピソードがあります。フライブルクからの参加者の 60 代のご婦人が、その日のプログラム（日本語学習など）が終わっても、家に帰ってこない、何かあったのではないか？と再三にわたり、ホームステイ先のご婦人から MIC に電話がかかってきます。今のように誰もが携帯電話を持っている時代ではありませんでしたから、昼間のプログラムの関係先、一緒に行動していた方たちなど、可能な範囲で連絡を取ってみましたが、皆さんその後はご存知ありません。事務所も大騒ぎになりました。夕方遅くになって、“大学からの帰り、一人でフジグランで楽しくお買い物などで時間を過ごしていた”という

ご本人が帰宅。何事もありませんでした。
「一人で行動して、何かあったんじゃないかと思って心配した」…という松山の人
「私はいい大人だし、旅行にも慣れているので、一人でも大丈夫」…というフライブルクの人
双方が善意なのに、受け止め方で気持ちのズレが起きることを実感した出来事でした。
　交流が始まった頃の連絡手段は Fax、（回答が早く欲しいなど）急ぐときは電話でした。ドイツとの時差の関係で、こちらから電話をかけるなら午後 3 時半以降くらいになります。先方の仕事が始まる時間を待って電話、でも秘書室があるような方以外は、捕まえるのが大変です。一度で電話が繋がったりしたら大ラッキー😊大抵は、何度もトライが必要でした。一事が万事そんな状態ですから、現地でサポートが無いと、なかなか話が先に進みません。よく冗談で「フライブルクに駐在員を置くようになったら、私が行きますから」と言っていたのですが、まさかの出来事で、本当に松山市の駐在員としてフライブルクに赴任することになりました。ビックリです。ちょうど姉妹都市提携から、10 年を迎えた頃でした。

***Living in Freiburg***

　実は駐在員に与えられたミッションは、姉妹都市交流のサポートが第一義ではありませんでした。当時「ドイツの環境首都」と呼ばれていたフライブルク市の環境政策について情報を集め、松山市の参考になりそうなことを探すのが目的でした。市役所の姉妹都市交流担当部署の計らいで、環境局、庭園局、森林局、都市建設局など、環境関連の部署での研修や現地視察、議会や委員会の見学など様々な機会をもらいました。とは言え、各分野の専門家ではない私にとっては、飛び交うドイツ語が宇宙語のように聞こえ、メモを取っては、後で意味を調べ直す、関係しそうな資料を探す…といった毎日でした。私にとって、良かったことは、目的はあるけれど、その目的を果たすための手段のマニュアルが無かったことでしょうか。「こうしなければならぬ」という前例も無いため、手探りながら、自由な発想で活動・行動ができたと思います。フライブルクでの駐在生活は 2 年 3 ヵ月に及びました。もちろん仕事ですから、それなりに大変なこともあったのですが、松山と

**1994 年、完成したフライブルク公園（八坂公園内）前で、松山市・公園緑地課、造園業者・愛媛庭園など関係者と一緒に。**

の交流に関わってくださった多くの皆さんに助けられ、仕事面でも生活面でも良い時間を過ごすことができました。松山へ帰ることになった際、「弥生はもう半分フライブルク人だね」と言ってもらえたことがとても嬉しかったのを覚えています。

2000 年 8 月、フライブルク駐在中。フライブルク公園の返礼に、フライブルク市内に造園予定の竹林用の素材探しで。

余談ですが、フライブルクで仕事をするようになって、判明したことの 1 つに、“電話がなかなか繋がらない理由”があります。ドイツの場合、多くの人が個室で働いています。市役所などでも同じです。（フライブルクの人が、松山市役所を訪問した際、どのフロアでも大部屋でたくさんの人が働いているのに驚いていました）私が A さんのオフィスで話をしていて、A さんの電話が鳴ったとします。でも、電話に出ないのです。「いいの？」と聞くと、「今は、あなたと話をしているから」とか「後でかけ直すから」…という答え、もし電話に出てしまって、それが思いのほか長くかかるようになると、目の前で話をしている人をずっと待たせることになるから、出ないのだそうです😳何度かそんな場面に出くわしました。松山から何度も電話せねばならなかった原因はこれか！と膝を打ちそうになりました。

***Return to Matsuyama***

駐在員生活を終えて、再び松山へ。元の職場へ復帰。現在に至ります。（←省略しすぎですか？）

フライブルクと松山の交流に関わる仕事をしてきて良かったと思うことは、様々な分野の方たちに出会ったことです。政治、経済、芸術、建設、研究、スポーツ、福祉などなど、多

様な方たちと会い、お仕事の一端を垣間見させてもらい、交流の現場に立ち会わせていただきました。素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝！です。

　そうそう、“やりたいことは口に出して言う”の精神で、松山に帰ってから、事あるごとに「宝くじが当たったら、フライブルクに家を買う」と言っていました。フライブルクは大きすぎず、小さすぎず、自然にも近くてとても暮らしやすいところです。できればもう少しフライブルクで暮らしてみたい。できることなら、春と秋は松山で暮らして（←食べ物が美味しいから）、夏と冬はフライブルクで暮らす（←夏は日本の方が暑いし、冬はドイツの家の方が暖かいから）…のがいいかな？などと言っていたのですが、フライブルクの家は高くなりすぎて、ジャンボ宝くじの一等賞金くらいはないと買えそうになくなりました。（フライブルクの住宅価格が高いのは有名で、今の市長の政策課題にもなっています）これからは時間ができるので、家は買えなくても時々ゆっくりと里帰りしたいと思っています。

2009 年 10 月、突然いけなくなった事務局長（当時）に代わって会の訪問ツアーに参加。市庁舎前にて。

## 徳永会長を偲んで

八束大三

2024 年 7 月、当会の第 2 代会長である徳永先生がご逝去された。

徳永先生は 1964 年に創立後間もない松山フライブルク会の会長に任ぜられ、以後 2013 年に至るまで 49 年間、異例の長きに亘って会の運営と発展に誠心誠意尽力された。将に私たちの会の「育ての親」と言っても過言ではない。

その功が認められ、1994 年にドイツ国政府から一等功労十字章を授与された。この受賞は、先生のお名前と共に松山フライブルク会の存在を世に知らしめた快挙であり、先生のご労苦に深甚なる敬意を表したい。

私は 2002 年入会であり先生のご活躍の一端しか存じ上げないが、フライブルクからのお客様の歓迎パーティーで、先生がドイツ語でスピーチをされたり、お客様と親しく歓談されるのを拝聴して、先生の当会に対する愛情と熱意と共に、ドイツとその文化についての造詣の深さを垣間見た。又、2013 年に会長を退任された後も当会の発展に気配りして戴いた。後継会長の私にも会の運営等について、ビールを酌み交わしながら優しくご助言を頂いた。その時の先生の温顔を思い出す。きっと今でも天国から松山フライブルク会の発展をお見守り下さっているのではないだろうか。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げたい。

## 事務局からのお知らせ

今号には、一昨年度末に退職された後、引き続き事務局を手伝ってくださっていた敷村さんにフライブルクへの想いを書いていただきました。フライブルクとの出会いから現在にいたるまでの長編！ですので、ぜひお楽しみください。

さて、今年 1 月に実施した「ワインを楽しむ会」では、ワイン好きのメンバーの間でフライブルク会ワイン部会を結成しようと盛り上がっておられました。事務局としては、他にもみなさまからの「こんなことをしたい」というアイデアを募集中です！

松山フライブルク会のホームページも宜しくお願いします

https://www.matsuyama-freiburg.com　松山フライブルク会　検　索